

起業・創業に対する意識WEB調査

起業・創業に対する意識WEB調査 全体詳細結果報告編

1 調査の目的

本調査は、令和2年より世界的に流行した、新型コロナウイルス感染症が多くの人々の就労、居住に対する意識にも大きな影響を与える中で、足立区及び足立区近郊に居住する人のうち、起業・創業に関心がある方々の、起業・創業に対する考えを把握し、平成28年に策定した経済活性化計画の中間見直しや、今後の区内における産業経済の発展や創業支援事業に関する施策に反映させることを目的としている。

2 調査の概要

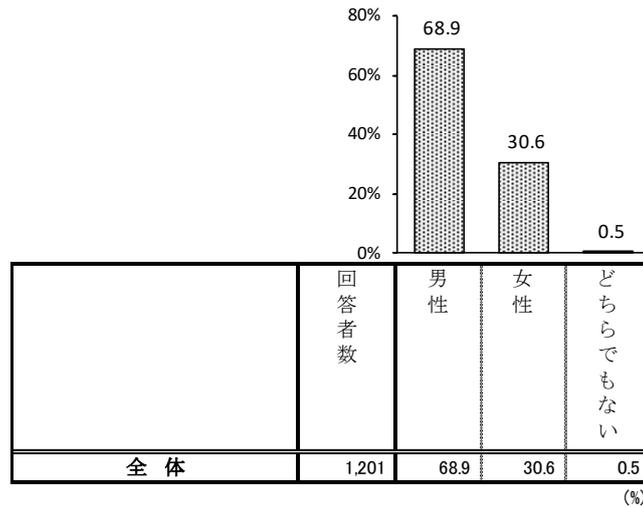
- | | |
|------------------|---|
| (1) 調査地域 | 足立区及び足立区周辺の指定9市区
(足立区、葛飾区、越谷市、草加市、柏市、流山市、
松戸市、八潮市、三郷市、吉川市) |
| (2) 調査対象 | 調査地域内に居住の20歳～69歳で、
下記①～③の対象条件のいずれかを満たす人
① 「最近10年以内に自身で起業（創業・独立）の経験がある」
② 「今後10年以内に自身で起業（創業・独立）の計画・意向がある」
③ 「自分の起業（創業・独立）について興味・関心がある」 |
| (3) 調査対象者の抽出 | 大手WEB調査機関が保有しているインターネット調査モニターの中から、スクリーニング調査により、条件該当者&有効回答者を抽出 |
| (4) スクリーニング調査配信数 | 約86,000サンプル
(調査地域の20～69歳の全数配信) |
| (5) 標本数 | 1,000サンプル+ α |
| (6) 調査方法 | インターネット調査（スクリーニング調査～本調査） |
| (7) 調査実施期間 | 令和3年8月11日（水）～8月17日（火） |
| (8) 回収数 | 1,201人 |
| (9) 調査実施主体 | 足立区 産業経済部 産業政策課 |
| (10) 調査実施機関 | (株)マーケティング・サービス |

＜WEB調査の全体結果＞

I 事前スクリーニング調査聴取項目

PQ1 性別（単数回答）

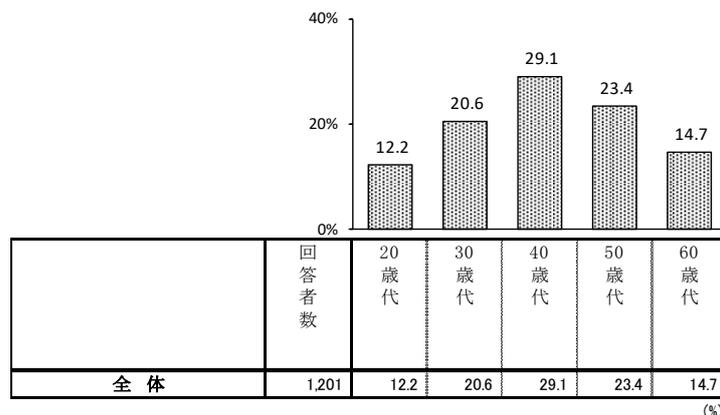
■ 対象者の男女比は、ほぼ7：3で、男性の方が多い構成。



本調査対象者1,201名の性別をみると、「男性」(68.9%)が7割弱、「女性」(30.6%)が3割強で、「どちらでもない」(0.5%)という回答は計6名にとどまる。

PQ2 年代（単数回答）

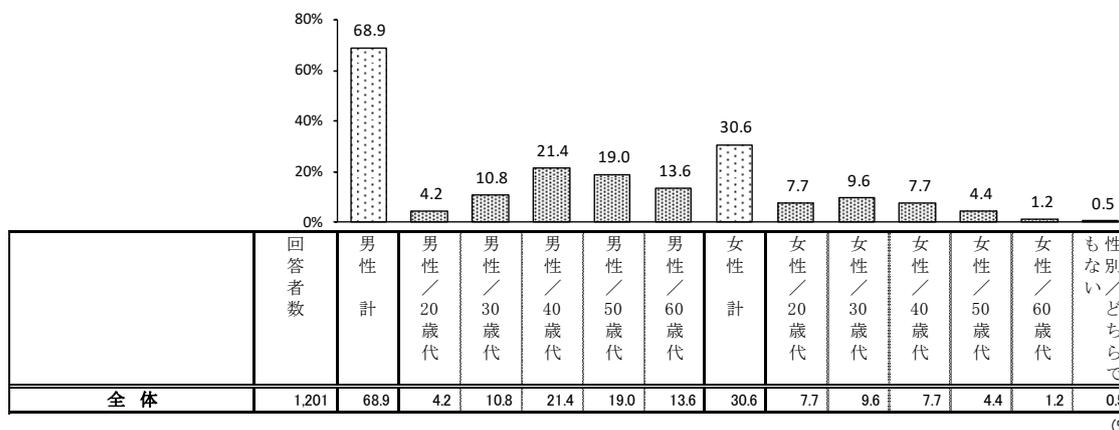
■ 対象者の年代構成は、3割弱の「40歳代」を中心とした山型分布。



対象者の年代は、「40歳代」(29.1%)が3割弱で最も多く、以下、「50歳代」(23.4%)が2割台半ば、「30歳代」(20.6%)が2割強、「60歳代」(14.7%)が1割台半ば、「20歳代」(12.2%)が1割強の順で続く構成で、40歳代を中核とした山型分布の年代構成となっている。

PQ1×2 性・年代別 (単数回答)

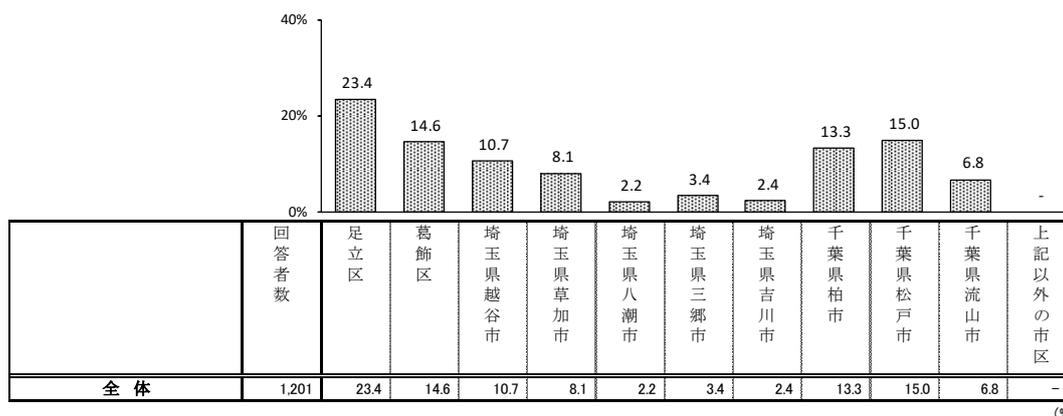
■ 「男性40歳代」と「男性50歳代」がそれぞれ2割前後で構成比が高め。



対象者の性・年代別の構成は、「男性40歳代」(21.4%)と「男性50歳代」(19.0%)がそれぞれ2割前後で多く、これに「男性60歳代」(13.6%)と「男性30歳代」(10.8%)が1割台前半で続くが、全体での割合が3割強の女性では、最も多い「女性30歳代」(9.6%)でも1割は超えていない。

PQ3 居住地 (単数回答)

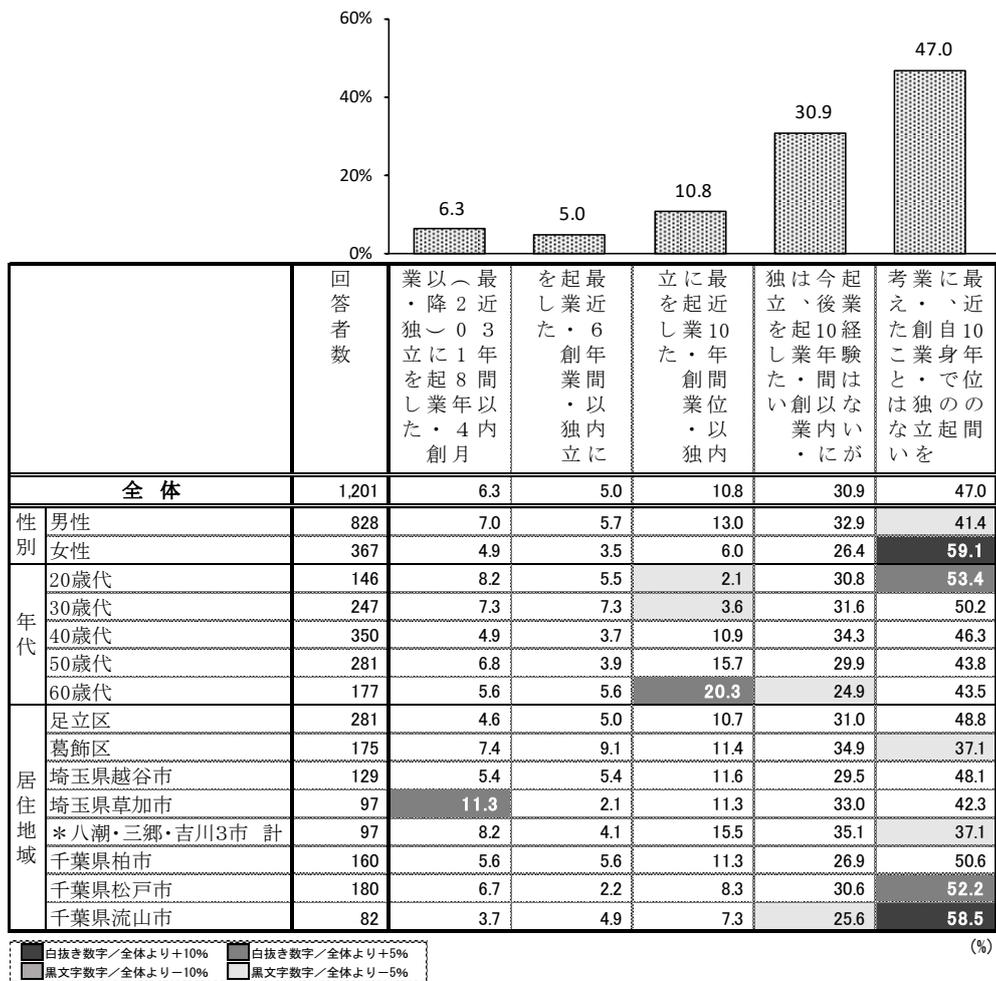
■ 2割台半ばの「足立区」を含む『足立区+葛飾区計』が4割弱、『千葉県3市計』が3割台半ば、『埼玉県5市計』が3割弱の構成。



対象者の居住地をみると、「足立区」(23.4%)が2割台半ばで最も多く、これに「松戸市」(15.0%)、「葛飾区」(14.6%)、「柏市」(13.3%)が1割台半ばで続き、都県別の構成比は『足立区+葛飾区計』(38.0%)が4割弱、『千葉県3市計』(35.1%)が3割台半ば、『埼玉県5市計』(26.9%)が3割弱となっている。

PQ4 最近10年間の起業・創業・独立の経験の状況 (単数回答)

■ 『最近10年以内の起業・創業・独立経験者 計』は2割強、
『10年間以内には起業・創業・独立したい』が3割強。



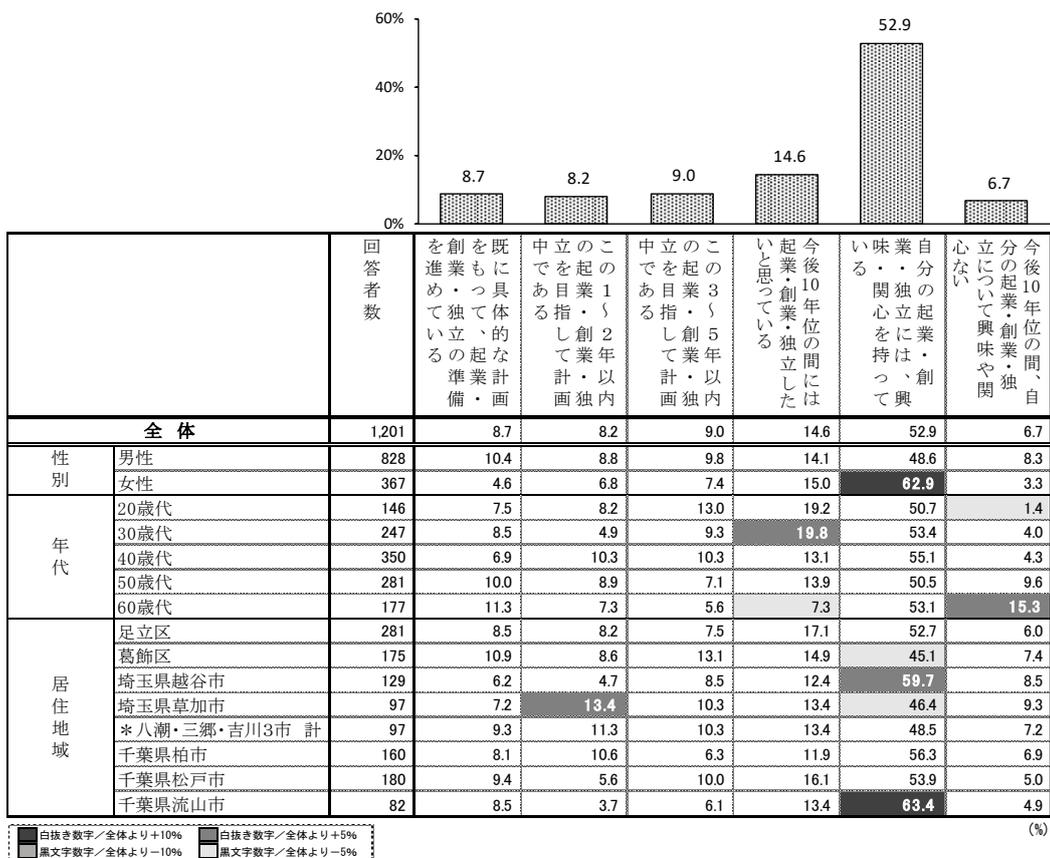
本調査の対象となった1,201名の最近10年間の起業等の経験状況は、「最近10年位の間、自身での起業・創業・独立を考えたことはない」(47.0%)が5割弱を占めて最も多く、次いで「実際に起業・創業・独立した経験はないが、今後10年間以内には、起業・創業・独立したいと考えている」(30.9%)が3割強で続き上位となっている。

一方、「最近3年間以内(2018年4月以降)」(6.3%)、「最近6年間以内(2015年4月~2018年3月)」(5.0%)、「最近10年間位以内(2011年3月~2015年3月)」(10.8%)の3層を合わせた『最近10年以内の起業・創業・独立経験者 計』(22.1%)は2割強となっている。

この結果を属性別にみると、『最近10年以内の起業・創業・独立経験者 計』（22.1% /全体）の割合は、性別では女性（14.4%）より男性（25.7%）で高く、年代別では60歳代（31.6%）を筆頭に年代が高いほどその割合も高まり、居住地域別では葛飾区（28.0%）や八潮・三郷・吉川3市計（27.8%）で高めの傾向がみられる。

PQ5 近い将来の起業・創業・独立への気持ち （単数回答）

■ 『具体的な予定はないが、自分の起業等には興味・関心あり』が5割強で最多。



本調査の対象となった1,201名の近い将来の起業等への気持ちをみると、「具体的な予定などはないが、自分の起業・創業・独立には、興味・関心を持っている」（52.9%）が5割強を占めて最も多く、「まだ何も決まっていないが、今後10年位の間には起業・創業・独立したいと思っている」（14.6%）が1割台半ばで続き上位となっている。

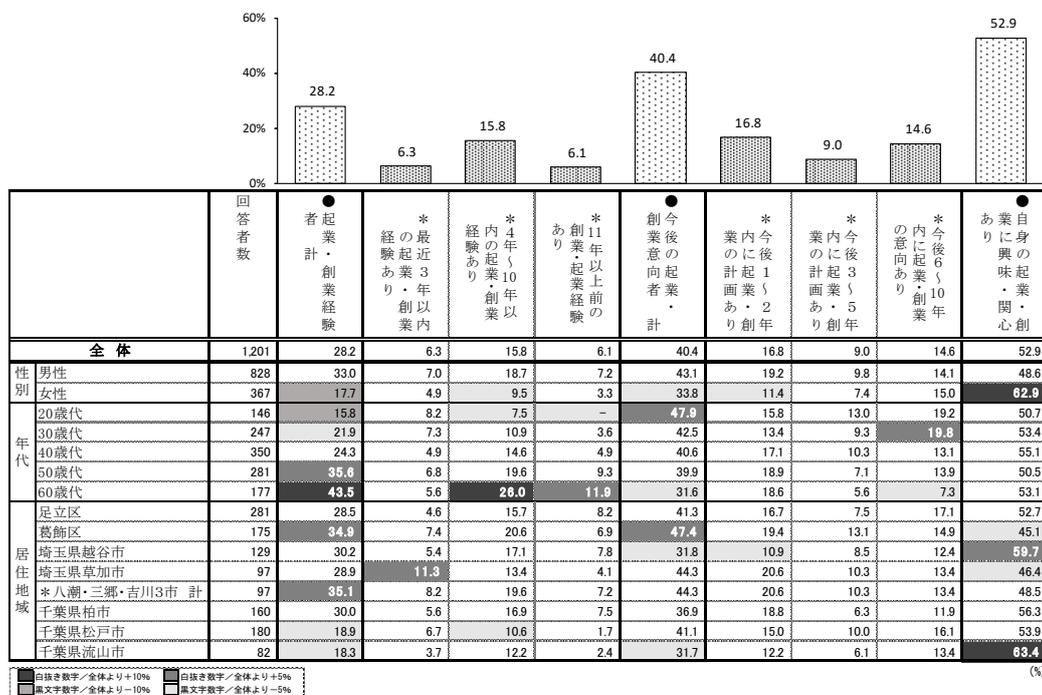
一方、それぞれ1割弱の「既に起業等の準備を進めている」（8.7%）に「この1～2年以内の起業等を計画中」（8.2%）と「この3～5年以内の起業等を計画中」（9.0%）の計3層を合わせた『5年以内の起業等を計画中 計』（25.8%）は2割台半ばとなっている。

なお、最近10年以内の起業等経験者が反応者となる「今後10年位の間、起業等の意向はなく、自分の起業等には興味や関心もない」（6.7%）は1割未満。

この結果を属性別にみると、『5年以内の起業等を計画中 計』（25.8%/全体）の割合は、性別では女性（18.8%）より男性（29.0%）の方が10.2ポイント高く、年代別では20歳代（28.8%）と40歳代（27.4%）でやや高めながら大きな年代差はみられず、居住地域別では葛飾区（32.6%）や草加市（30.9%）、八潮・三郷・吉川3市計（30.9%）で高めの傾向がみられるが、足立区（24.2%）は全体をやや下回っている。

P 1 起業・創業の経験&意向レベルパターン（複数回答処理）

■ 『起業・創業経験者 計』が3割弱、
『10年以内の起業・創業意向者 計』がほぼ4割。



PQ 4の「最近10年間の起業等の経験の状況」とPQ 5の「近い将来の起業等への気持ち」への回答及び問7の「自身での企業等の経験有無」への回答の組み合わせから作成した対象者1,201名の「P 1 起業・創業の経験&意向レベルパターン」の結果をみると、「11年以上前に起業等の経験あり」（6.1%）を含めた『●起業・創業経験者 計』（28.2%）が3割弱、『●今後（10年以内）の起業・創業意向者 計』（40.4%）がほぼ4割、『●自身の起業・創業に興味・関心あり』（52.9%）が5割強となっている。

（なお、この3層には複数の層に反応している重複者も含まれるため、合わせると100.0%を超えることに留意）

この結果を属性別にみると、『●起業・創業経験者 計』(28.2%/全体)の割合は、3割強の男性(33.0%)が2割弱の女性(17.7%)を15.3ポイント上回って男女別の差が大きく、年代別でも4割台半ばの60歳代(43.5%)を筆頭に年代が高まるにつれて割合も高まる年代差が明確にみられる。なお、居住地域別では八潮・三郷・吉川3市計(35.1%)と葛飾区(34.9%)でともに3割台半ばと高い一方で、流山市(18.3%)と松戸市(18.9%)ではともに2割弱にとどまり地域差がみられる結果となっている。

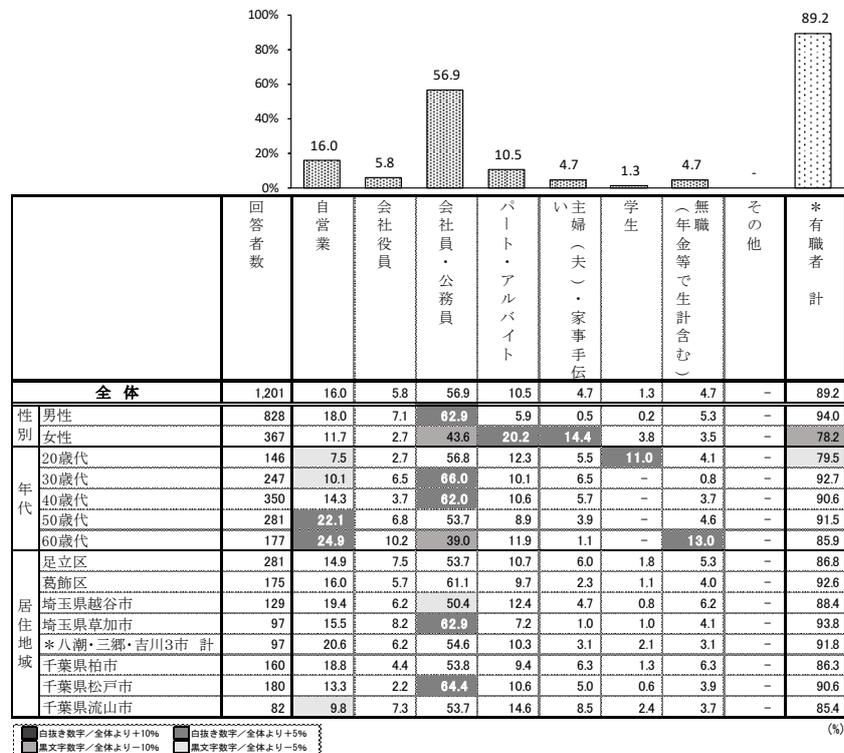
次に『●今後(10年以内)の起業・創業意向者 計』(40.4%/全体)の結果を属性別にみると、性別では男性(43.1%)の方が女性(33.8%)より9.3ポイント高く、年代別では5割弱の20歳代(47.9%)を筆頭に年代が若い層ほど割合が高まる年代別傾向が明確で、居住地域別では葛飾区(47.4%)と八潮・三郷・吉川3市計(44.3%)でそれぞれ高めとなっている。

なお『●自身の起業・創業に興味・関心あり』(52.9%/全体)では、6割強の女性(62.9%)が男性(48.6%)を14.3ポイント上回っており、大きな年代差はみられないものの、居住地域別では流山市(63.4%)や越谷市(59.7%)などで高くなっている。

II インターネット本調査聴取項目

問1 職業 (単数回答)

■ 6割弱の「会社員・公務員」を中核に『有職者』が9割弱を占めている。



本調査対象者1,201名の職業をみると、「会社員・公務員」(56.9%)が6割弱で最も多く、これに「自営業」(16.0%)が1割台半ば、「パート・アルバイト」(10.5%)が1割強で続き上位となっており、『有職者』(89.2%)が9割弱を占めて中核となっている。

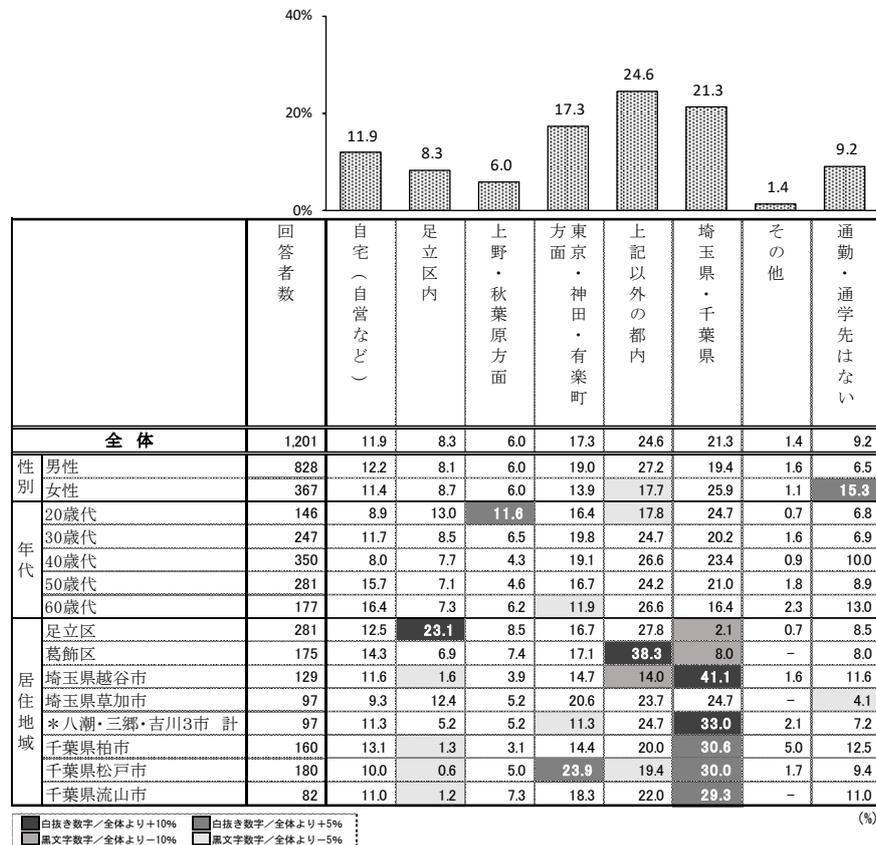
これを性別でみると、「会社員・公務員」(男性62.9%>女性43.6%)、「自営業」(男性18.0%>女性11.7%)、『有職者』(男性94.0%>78.2%)などは男性の方が高いが、「パート・アルバイト」(女性20.2%>男性5.9%)と「主婦(夫)・家事手伝い」(女性14.4%>男性0.5%)などは女性の方が高くなっている。

年代別でみると、「会社員・公務員」は30歳代(66.0%)を頂点とした山型分布の傾向がみられ、「自営業」は60歳代(24.9%)を筆頭に年代が高まるにつれてその割合も高まり、「無職」は60歳代(13.0%)で高めだが、これらを除くと目立って大きな年代差はみられない。

居住地域別でみると、「会社員・公務員」は松戸市(64.4%)と草加市(62.9%)で、「自営業」は八潮・三郷・吉川3市計(20.6%)と「越谷市」(19.4%)で、「パート・アルバイト」は「流山市」(14.6%)で、それぞれやや高めとなっているが、これらを除くと目立って大きな差はみられない。

問2 通勤・通学先 (単数回答)

■ 2割の『足立区内 計』を含めて『東京都内 計』が7割弱を占めて中核。



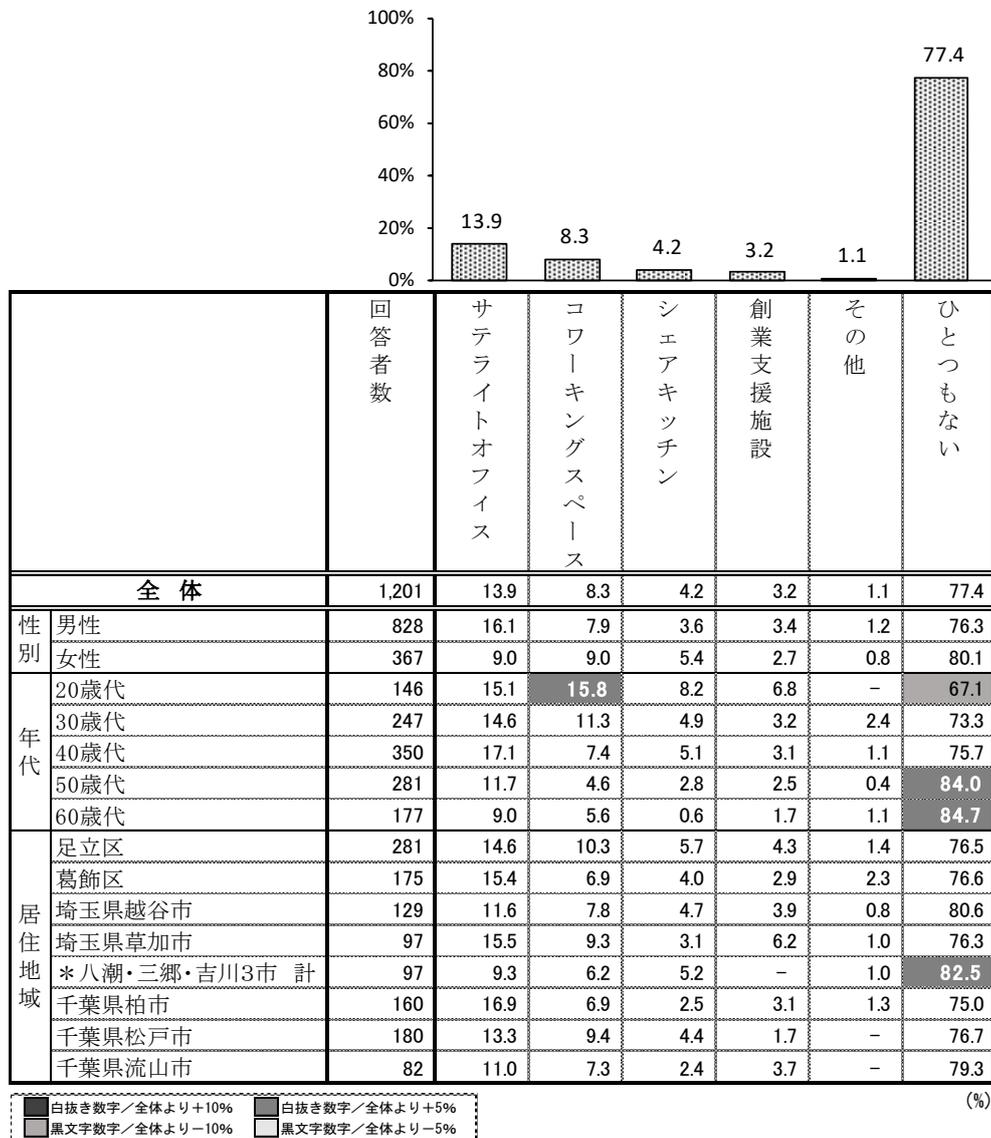
全対象者(n=1,201)に聞いた通勤・通学先の結果は、「上記以外の都内」(24.6%)が2割台半ばで最も多く、これに「埼玉県・千葉県」(21.3%)が2割強で続き、以下「東京・神田・有楽町方面」(17.3%)、「自宅(自営など)」(11.9%)、「足立区内」(8.3%)、「上野・秋葉原方面」(6.0%)の順となっている。一方「通勤・通学先がない」(9.2%)は1割弱となっている。

なお、上記の結果から参考までに算出した『*足立区内に居住or通勤・通学先あり 計』(26.3%)の割合は2割台半ばである。

この結果を属性別にみると、「上記以外の都内」は、男性(27.2%)の方が9.5ポイント高く、年代別では40歳代と60歳代(各26.6%)でやや高く、居住地域別では葛飾区(38.3%)で特に高くなっている。一方「埼玉県・千葉県」は、女性(25.9%)の方が6.5ポイント高めで、当然のことながら居住地域別では埼玉県や千葉県の各調査対象市で高めとなっている。なお通勤・通学先に「足立区」をあげた人の割合は、足立区(23.1%)に次いで草加市(12.4%)で相対的に高めとなっている。

問3 仕事で利用経験のある施設 (複数回答)

■ 「サテライトオフィス」が1割台半ばで最も高いが、「ひとつもない」が8割弱。

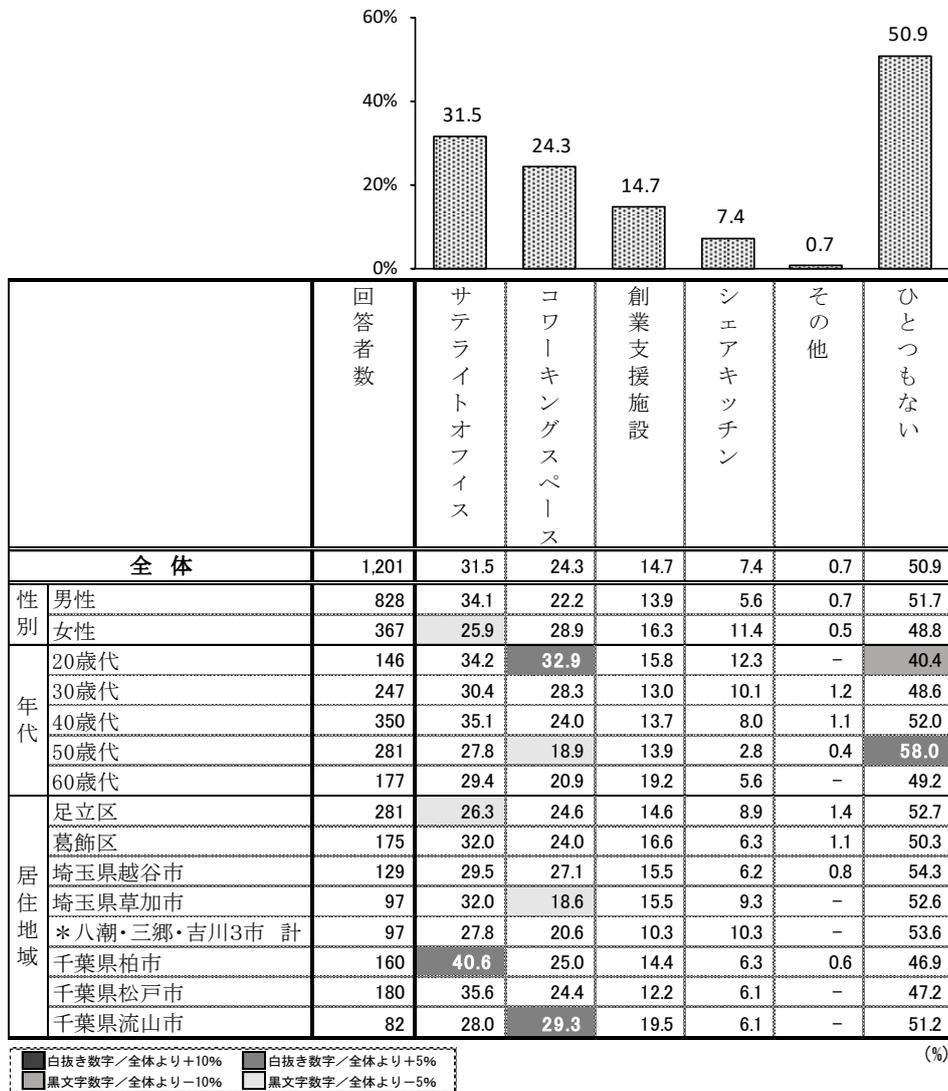


仕事で利用経験のある施設を聞いた結果は、「ひとつもない」(77.4%)が8割弱を占めて多いものの、中では「サテライトオフィス」(13.9%)が1割台半ばで最も高く、これに「コワーキングスペース」(8.3%)が1割弱で続いている。

この結果を属性別にみると、「ひとつもない」が、年代別の60歳代(84.7%)と50歳代(84.0%)で、居住地域別の八潮・三郷・吉川3市計(82.5%)で、それぞれ高めなのを除くと、属性別に目立った違いはみられない。

問4 今後、仕事で利用意向のある施設 (複数回答)

■ 「サテライトオフィス」が3割強、「コワーキングスペース」が2割台半ば。

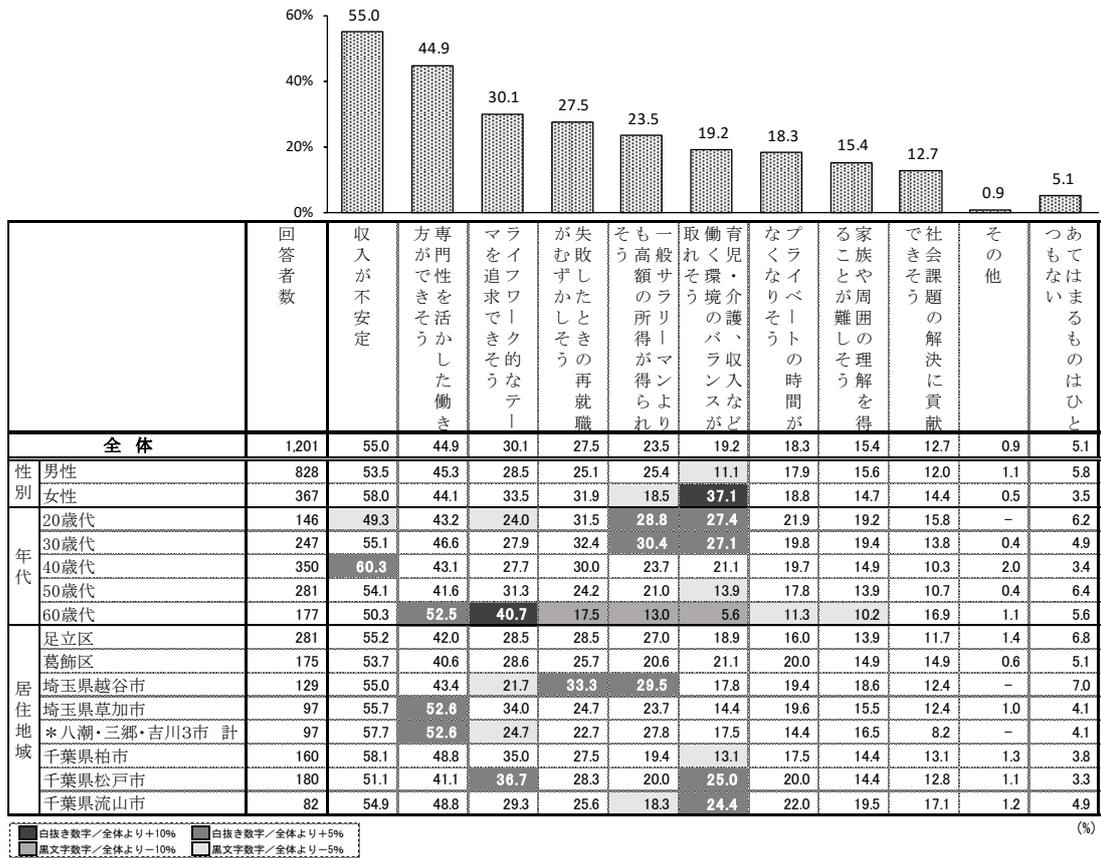


今後、仕事で利用意向のある施設を聞いた結果も、「ひとりもない」(50.9%)が5割を超えて多いものの、中では「サテライトオフィス」(31.5%)が3割強で最も高く、これに「コワーキングスペース」(24.3%)が2割台半ば、「創業支援施設」(14.7%)が1割台半ば、「シェアキッチン」(7.4%)が1割弱の順で続いている。

この結果を属性別にみると、「サテライトオフィス」が地域別の柏市(40.6%)で高めなこと、「コワーキングスペース」が年代別の20歳代(32.9%)と地域別の流山市(29.3%)で高めなこと、「ひとりもない」が年代別の20歳代(40.4%)で低い一方50歳代(58.0%)で高めなこと、などを除くと属性別に目立った違いはみられない。

問5 起業・創業の印象・イメージ（複数回答）

■ 「収入が不安定」が5割台半ばで最も高いが、
 「専門性を活かした働き方ができそう」が4割台半ばで続いて次点。

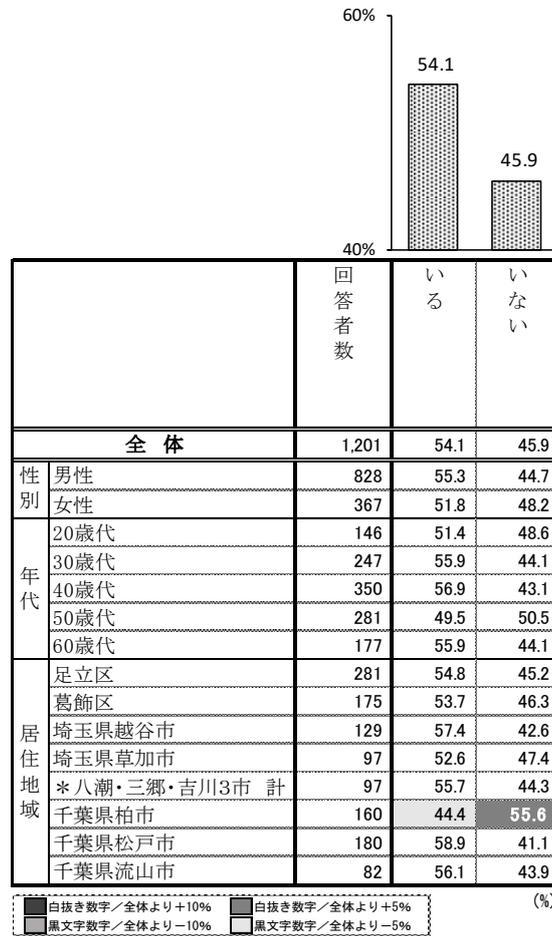


起業・創業の印象・イメージを聞いた結果は、「収入が不安定」(55.0%)が5割台半ばで最も高く、次いで「専門性を活かした働き方ができそう」(44.9%)が4割台半ばで、以下「ライフワーク的なテーマを追求できそう」(30.1%)、「失敗したときの再就職がむずかしそう」(27.5%)、「一般サラリーマンより高額所得が得られそう」(23.5%)などが続き上位となっている。

この結果を属性別にみると、「収入が不安定」は年代別の40歳代(60.3%)で高めとなっており、「ライフワーク的なテーマを追求できそう」と「専門性を活かした働き方ができそう」は60歳代(40.7%/52.5%)で高めとなっている。また、女性で高く性差の大きい「育児・介護、収入など働く環境のバランスが取れそう」(女性37.1% > 男性11.1%/26.0P差)は年代別では20歳代(27.4%)と30歳代(27.1%)で高めとなっている。

問6 身近な親族・友人に起業・独立・開業した人の有無 (単数回答)

■ 「いる」が5割台半ばで、4割台半ばの「いない」を上回っている。

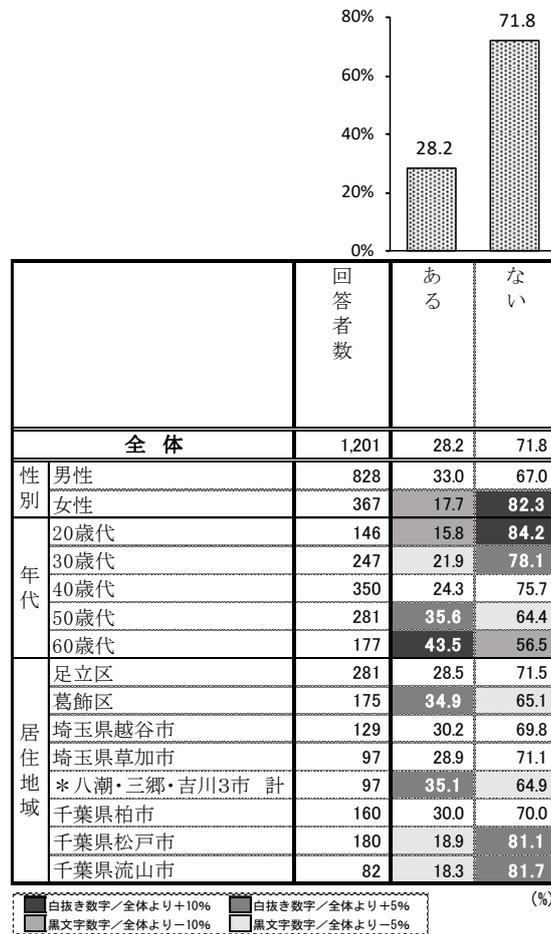


身近な親族・友人に起業・独立・開業した人の有無では、「いる」(54.1%)が5割台半ばで、4割台半ばの「いない」(45.9%)を上回っている。

この結果を属性別にみても、目立って大きな差はみられないが、「いる」の割合は、性別では女性(51.3%)より男性(55.3%)の方がやや高く、年代別では50歳代(49.5%)で、居住地域別では柏市(44.4%)で、それぞれやや低めとなっている。

問7 自身での起業・創業・独立の経験有無 (単数回答)

■ 『自身での起業等経験者』は3割弱で、女性より男性で、高年代層ほど、高め。

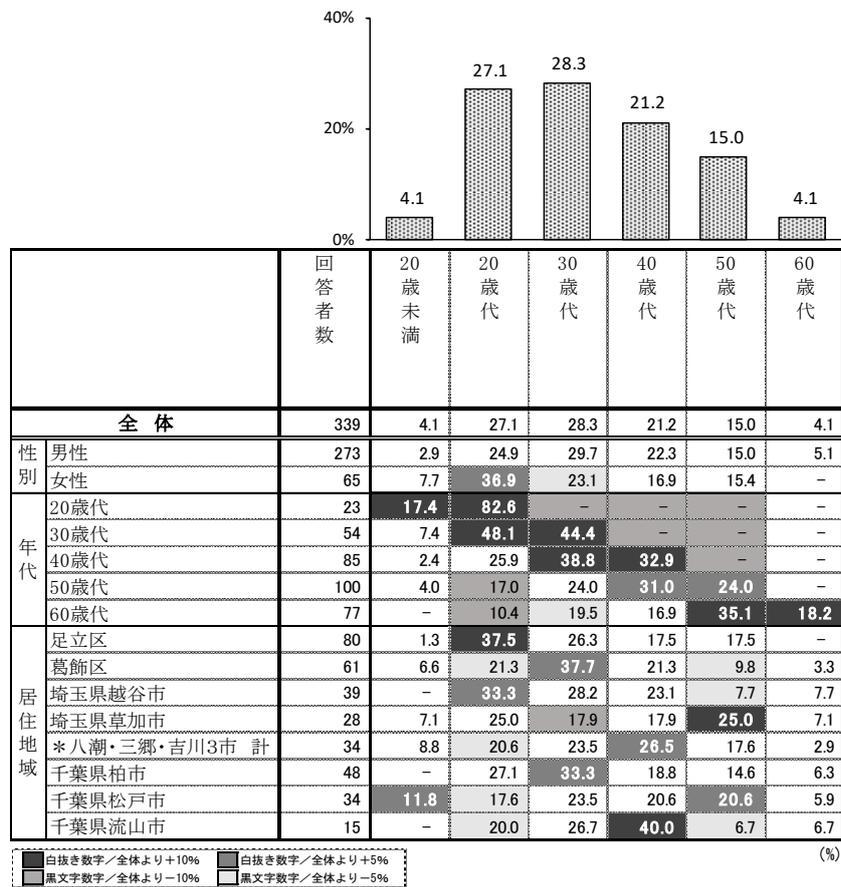


自身での起業・創業・独立の経験有無を聞いた結果をみると、「ある」(28.2%)と回答した『自身での起業等経験者』という人が3割弱となっている。

この結果を属性別にみると、「ある」の割合は、性別では女性(17.7%)より男性(33.0%)の方が15.3ポイント高く、年代別ではある程度当然のことながら60歳代(43.5%)を筆頭に、年代が高くなるにつれてその割合も高まる結果となっている。

問8 【問7=①の「自身での起業・創業・独立の経験者」(n=339) ベース】
初めて自身の起業・創業・独立を考えた年代 (単数回答)

■ 「30歳代」と「20歳代」がともに3割弱で並んで上位。



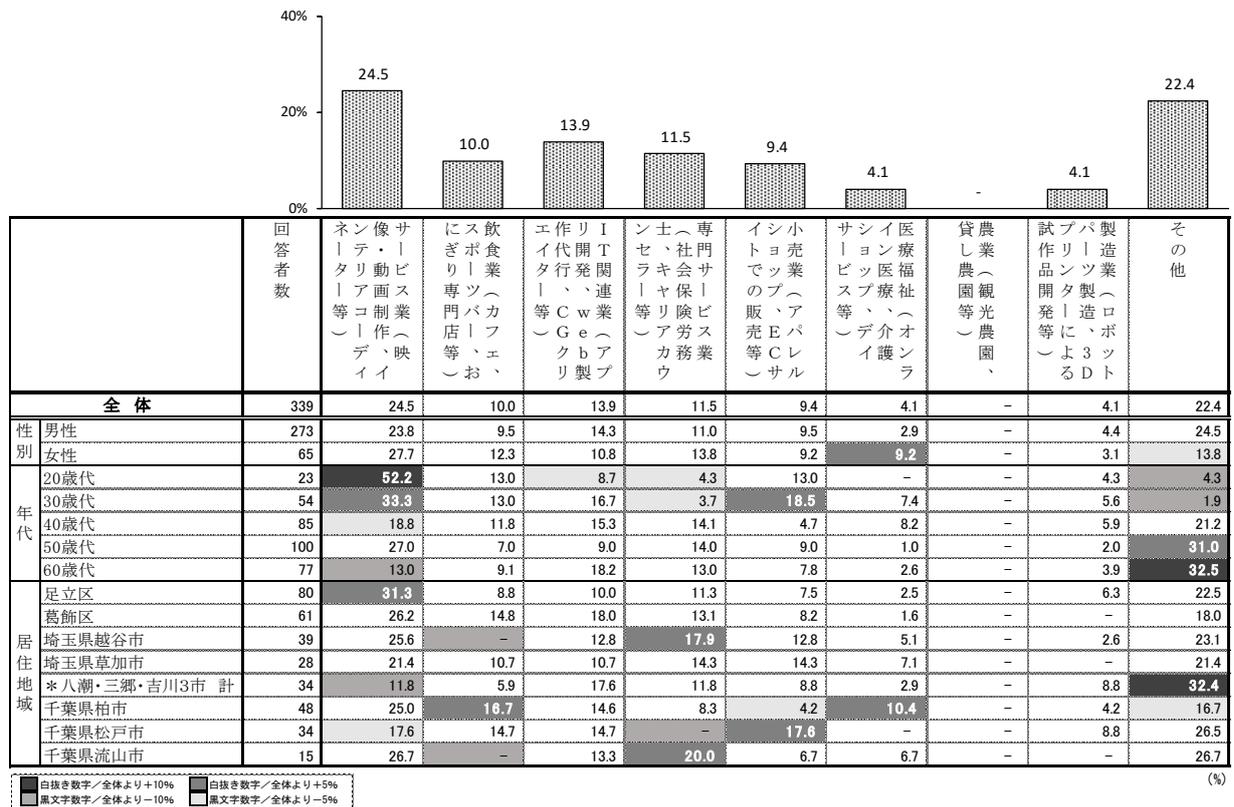
『自身での起業等経験者』という人 (n=339) に、初めて自身の起業・創業・独立を考えた年代を聞いた結果は、「30歳代」(28.3%)と「20歳代」(27.1%)がともに3割弱で上位にあり、以下「40歳代」(21.2%)が2割強、「50歳代」(15.0%)が1割台半ば、「20歳未満」と「60歳代」(各4.1%)がともに4%台の順となっている。

この結果を年代別にみると、一部サンプル数の少ない年代があり留意が必要なものの、各年代ともに、自分の現在の年代と10年前の年代をあげる割合がそれぞれ高めとなっている。

なお、性別では、「20歳代」をあげる割合が男性 (24.9%) より女性 (36.9%) の方が12.0ポイント高くなっている。

問9 【問7=①の「自身での起業・創業・独立の経験者」(n=339) ベース】
自身で起業・創業・独立した業種(最新のケース) (単数回答)

■ 「サービス業」が2割台半ばで最も多く、「その他」や「IT関連業」が続く。
「その他」では“建設業”や“不動産業”などが多めの傾向。



『自身での起業等経験者』(n=339)に、自身で起業・創業・独立した業種(最新のケース)を聞いた結果は、予め選択肢を用意した業種の中では「サービス業」(24.5%)が2割台半ばで最も多く、次いで「IT関連業」(13.9%)が1割台半ば、以下「専門サービス業」(11.5%)、「飲食業」(10.0%)、「小売業」(9.4%)の3業種がそれぞれ1割前後で続く構成となっている。

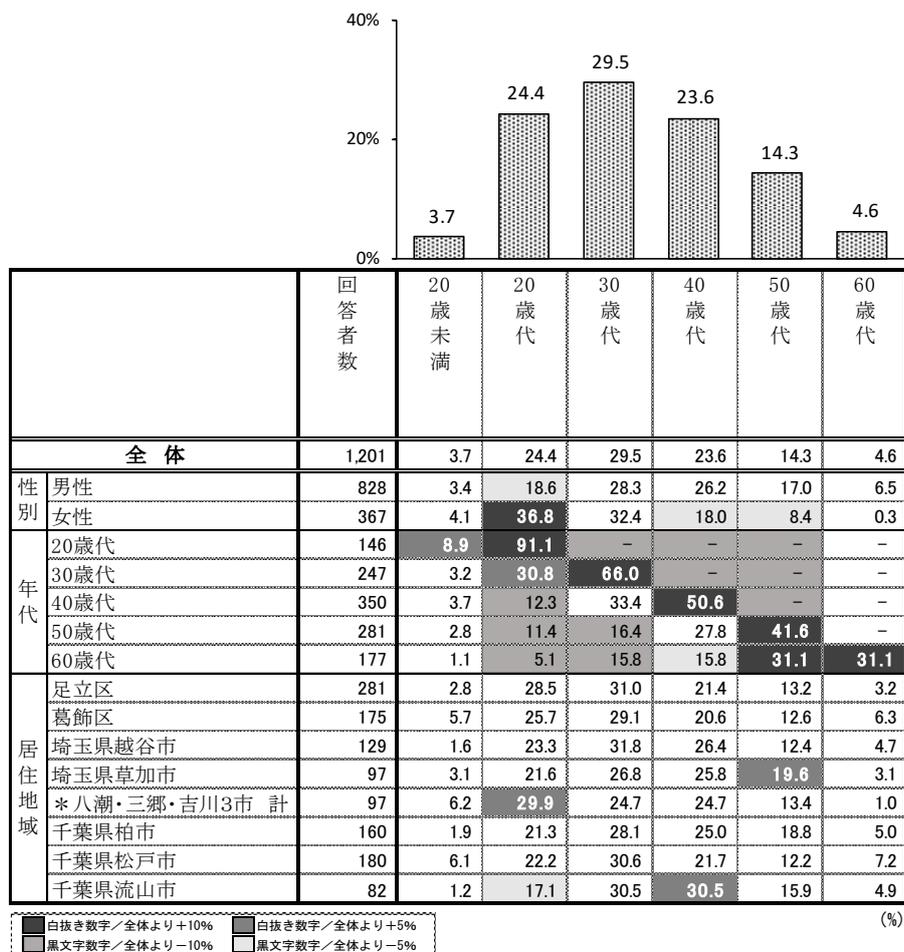
一方、2割強の「その他」(22.4%)の具体的内容としては、様々な業種があげられているものの、“建設業”や“不動産業”などが多めの傾向がみられる。

この結果を属性別にみると、性別では「医療福祉」(女性9.2%>男性2.9%)が女性の方が高めの傾向であることを除くと大きな差はみられないが、年代別では「サービス業」は20歳代(52.2%)を筆頭に若年層ほど高めの傾向がみられるのに対して「その他」は60歳代(32.5%)を筆頭に逆に高齢層ほど高めの傾向がみられ、この2項目で年代差がみられる結果となっている。

問10 初めて自身の起業・創業・独立を考えた年代 (単数回答)

(全数ベース/問8回答者はその回答を当てはめ)

■ 「30歳代」が3割、「20歳代」と「40歳代」が2割台半ばで並んで上位。



全対象者 (n=1,201) に聞いた、初めて自身の起業・創業・独立を考えた年代の結果をみると、「30歳代」(29.5%) がほぼ3割で最も多く、次いで「20歳代」(24.4%) と「40歳代」(23.6%) がともに2割台半ばで並んで上位にあり、以下「50歳代」(14.3%) が1割台半ば、「60歳代」(4.6%) と「20歳未満」(3.7%) とが4%前後で続く順となっている。

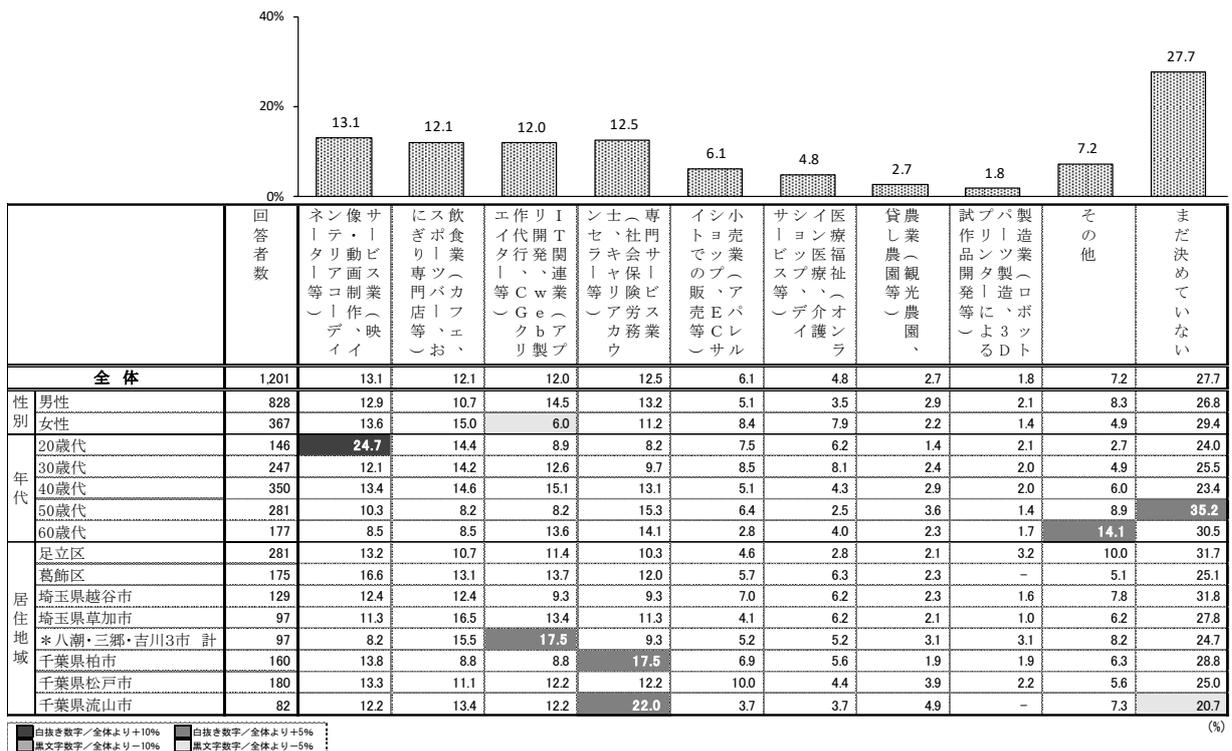
この結果を年代別にみると、前出の問8の回答傾向と同様に、各年代ともに、自分の現在の年代と10年前の年代をあげる割合がそれぞれ高めとなっている。

なお、性別では、「20歳代」をあげる割合が男性(18.6%)より女性(36.8%)の方が18.2ポイント高く、男女間の差が大きくなっている。

問11 自身の起業・創業・独立で想定している業種 (単数回答)

■ 「サービス業」「専門サービス業」「飲食業」「IT関連業」の

4業種が1割強で並び上位ながら、「まだ決めていない」も3割弱。



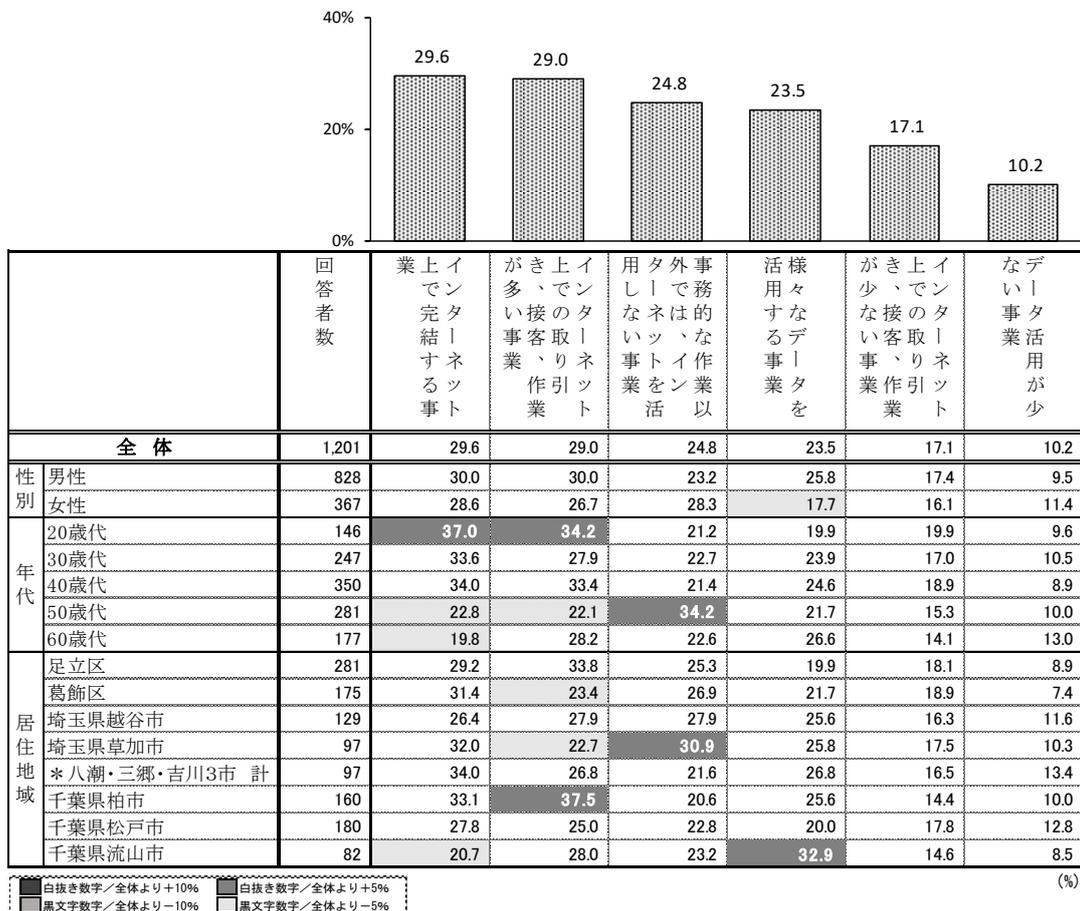
全対象者 (n=1,201) に、自身の起業・創業・独立で想定している業種を聞いた結果をみると、「まだ決めていない」(27.7%)が3割弱を占めて多いものの、予め選択肢を用意した業種の中では「サービス業」(13.1%)、「専門サービス業」(12.5%)、「飲食業」(12.1%)、「IT関連業」(12.0%)の4業種がそれぞれ1割強で並び上位となっている。

一方、1割弱の「その他」(7.2%)の具体的内容としては、様々な業種があげられているものの、“建設業”や“不動産業”、“教育関係”などが多めの傾向がみられる。

この結果を属性別にみると、年代別に20歳代で「サービス業」(24.7%)が高く、50歳代で「まだ決めていない」(35.2%)が、60歳代で「その他」(14.1%)が、それぞれ高めとなっているのを除くと、目立って大きな差はみられない。

問12 自身の起業・創業・独立後に考えている事業内容 (複数回答)

■ 『ネット上で完結』と『ネット上が中心』の事業がともにほぼ3割程度で上位。

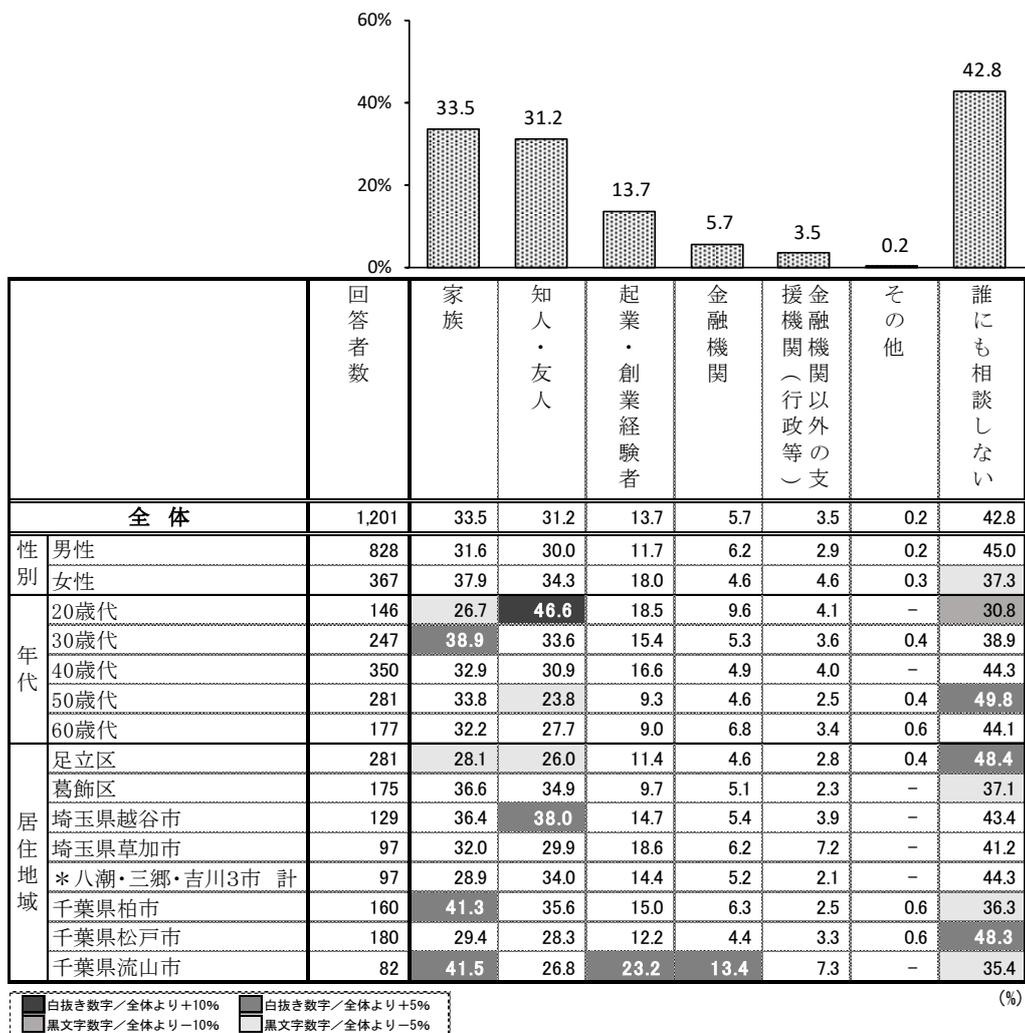


自身の起業・創業・独立後に考えている事業内容を複数回答で聞いた結果は、「インターネット上で完結する事業」(29.6%)と「インターネット上での取り引き、接客、作業が多い事業」(29.0%)がともに3割近くで並んで高く、この最上位2項目に「事務的な作業以外では、インターネットを活用しない事業」(24.8%)と「様々なデータを活用する事業」(23.5%)がともに2割台半ばで並んで続き上位となっている。

この結果を属性別にみると、性別では「様々なデータを活用する事業」(男性25.8%>女性17.7%)でやや差がみられるのを除くと大きな差はみられず、年代別では「インターネット上で完結する事業」と「インターネット上での取り引き、接客、作業が多い事業」の上位2項目が20歳代(37.0%/34.2%)で高めで、逆にこの上位2項目が低めな50歳代で「事務的な作業以外では、インターネットを活用しない事業」(34.2%)が高めとなっているのを除くと大きな差はみられない。

問13 自身の起業・創業・独立についての相談相手 (複数回答)

■ 「家族」と「友人・知人」が3割前半で並んで上位ながら、
「誰にも相談しない」が4割強で最多。



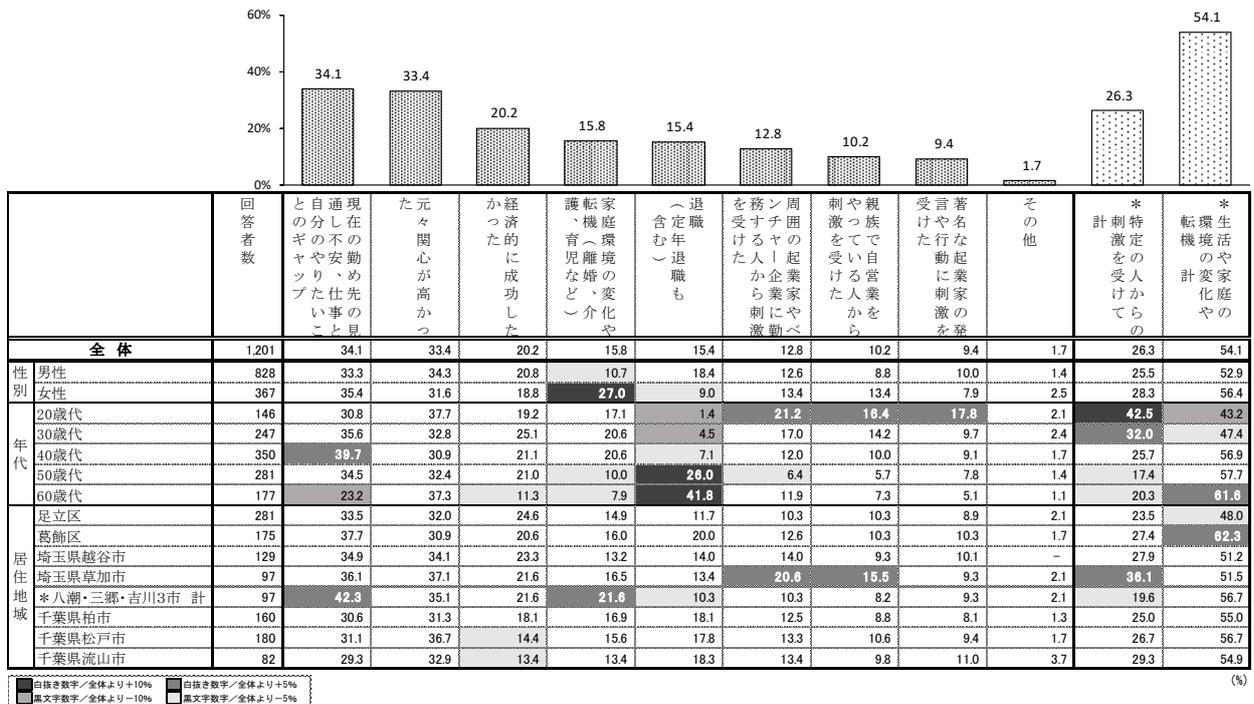
自身の起業・創業・独立についての相談相手を聞いた結果は、「誰にも相談しない」(42.8%)が4割強で最も高いが、具体的な相談相手では「家族」(33.5%)と「友人・知人」(31.2%)が3割強から3割台半ばで高くなっており、以下「起業・創業経験者」(13.7%)、「金融機関」(5.7%)、「金融機関以外の支援機関(行政等)」(3.5%)の順となっている。

この結果を属性別にみると、年代別で、「友人・知人」が20歳代(46.6%)で高く、「家族」が30歳代(38.9%)で、「誰にも相談しない」が50歳代(49.8%)で、それぞれ高めとなっているのを除くと大きな差はみられない。

問14 自身の起業・創業・独立を考えたきっかけ (複数回答)

■ 『現業への見通し不安・やりたいことのギャップ』と

『従来からの起業等への高関心』が3割台前半で並んで最上位。



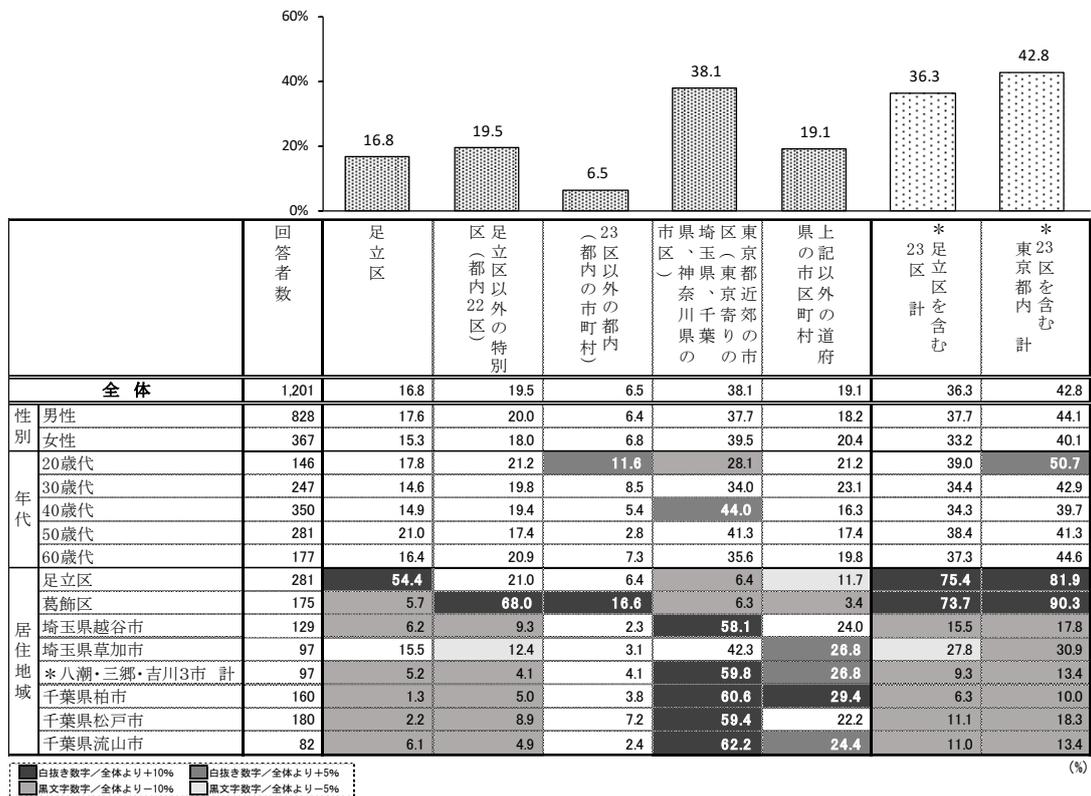
自身の起業・創業・独立を考えたきっかけを聞いた結果をみると、「現在の勤め先の見通し不安、現在の仕事と自分のやりたいことのギャップ」(34.1%)と「元々関心が高かった」(33.4%)の2項目がともに3割台半ばで並んで最上位を競っており、次いで「経済的に成功したかった」(20.2%)がほぼ2割で続き、以下「家庭環境の変化や転機(離婚、介護、育児など)」(15.8%)と「退職(定年退職も含む)」(15.4%)がともに1割台半ばで並んで上位となっている。

この結果を性別にみると、「家庭環境の変化や転機(離婚、介護、育児など)」(女性27.0%>男性10.7%)で女性の方が、「退職(定年退職も含む)」(男性18.4%>女性9.0%)で男性の方が、それぞれ高めとなっているのを除くと大きな差はみられない。

次に年代別にみると、最上位の「現在の勤め先の見通し不安、現在の仕事と自分のやりたいことのギャップ」は40歳代(39.7%)で、中位の「退職(定年退職も含む)」は60歳代と50歳代(41.8%/26.0%)で、下位にある3項目のいずれかへの反応を合わせた『特定の人からの刺激を受けて計』は20歳代(42.5%)で、それぞれ高くなっている。

問15 最も有力な自身の起業・創業・独立先の地域 (単数回答)

■ 現在自分の住んでいる地域をあげる人が多く、「足立区」は2割弱で、「東京都隣接3県の市区」が4割弱で最多。



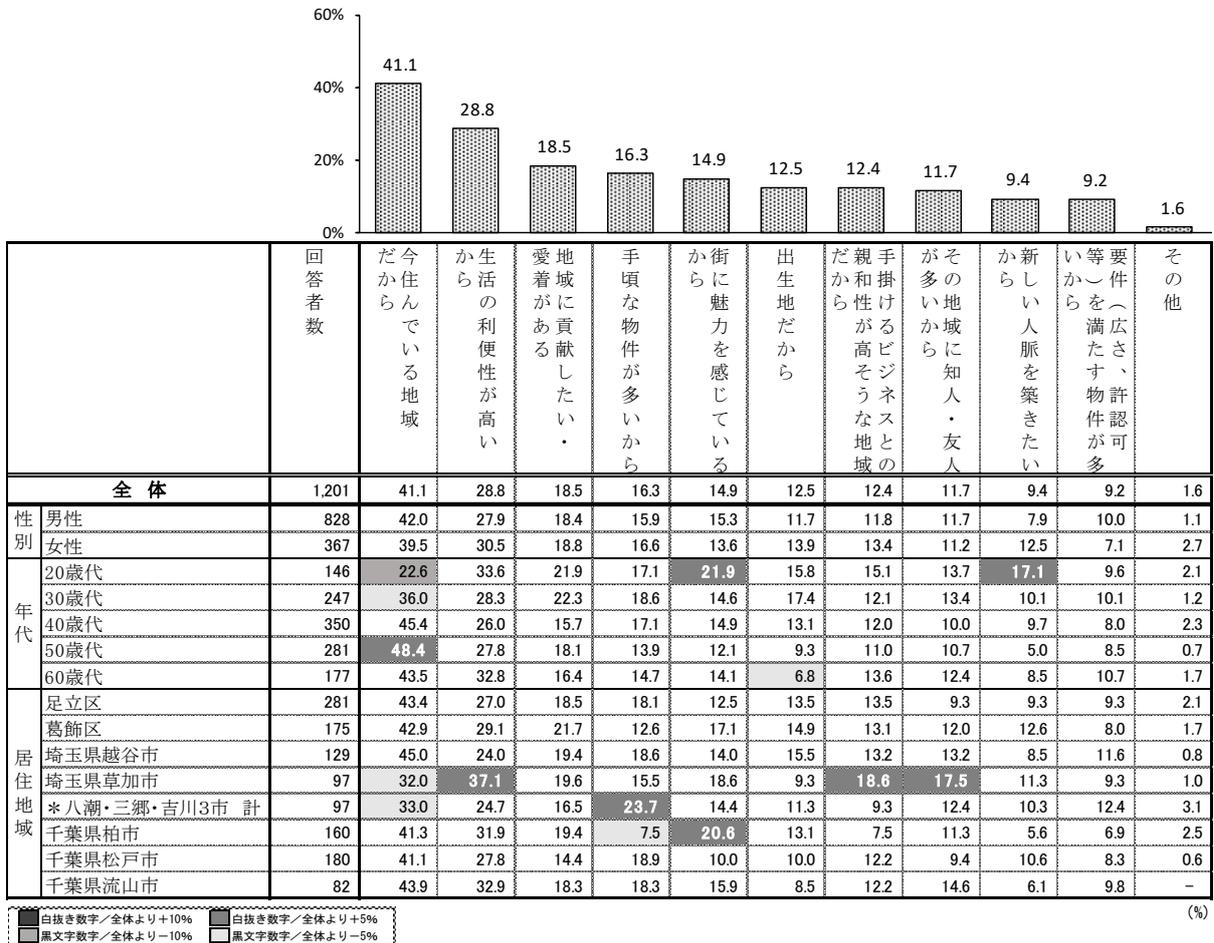
最も有力な自身の起業・創業・独立先の地域を選んでもらった結果をみると、「東京都近郊の市区（東京寄りの埼玉県、千葉県、神奈川県）」（38.1%）が4割弱で最も多く、これに「足立区以外の特別区（都内22区）」（19.5%）と「上記以外の道府県の市区町村」（19.1%）が2割近くで並んで続き、以下「足立区」（16.8%）、「23区以外の都内（都内の市町村）」（6.5%）の順となっている。

この結果を性別や年代別にみると、性別では目立った差はみられず、年代別でも「23区以外の都内（都内の市町村）」と『23区を含む東京都内計』が20歳代（11.6%/50.7%）で、「東京都近郊の市区（東京寄りの埼玉県、千葉県、神奈川県）」が40歳代（44.0%）で、それぞれ高めとなっているのを除くと大きな差はみられない。

一方、この結果を居住地域別にみると、ある程度当然とはいえ大きな差が目立ち、それぞれの対象者が自分の住む地域を中心に選んでいる傾向が明確にみられる結果となっている。なお、「足立区」は区内居住者の半数以上（54.4%）が選んでいるが、それに続くのは草加市居住者（15.5%）となっている。

問16 最も有力な自身の起業・創業・独立先の地域の選択理由 (複数回答)

■ 「今住んでいる地域」が4割強で最も高く、「生活の利便性が高い」が3割弱。

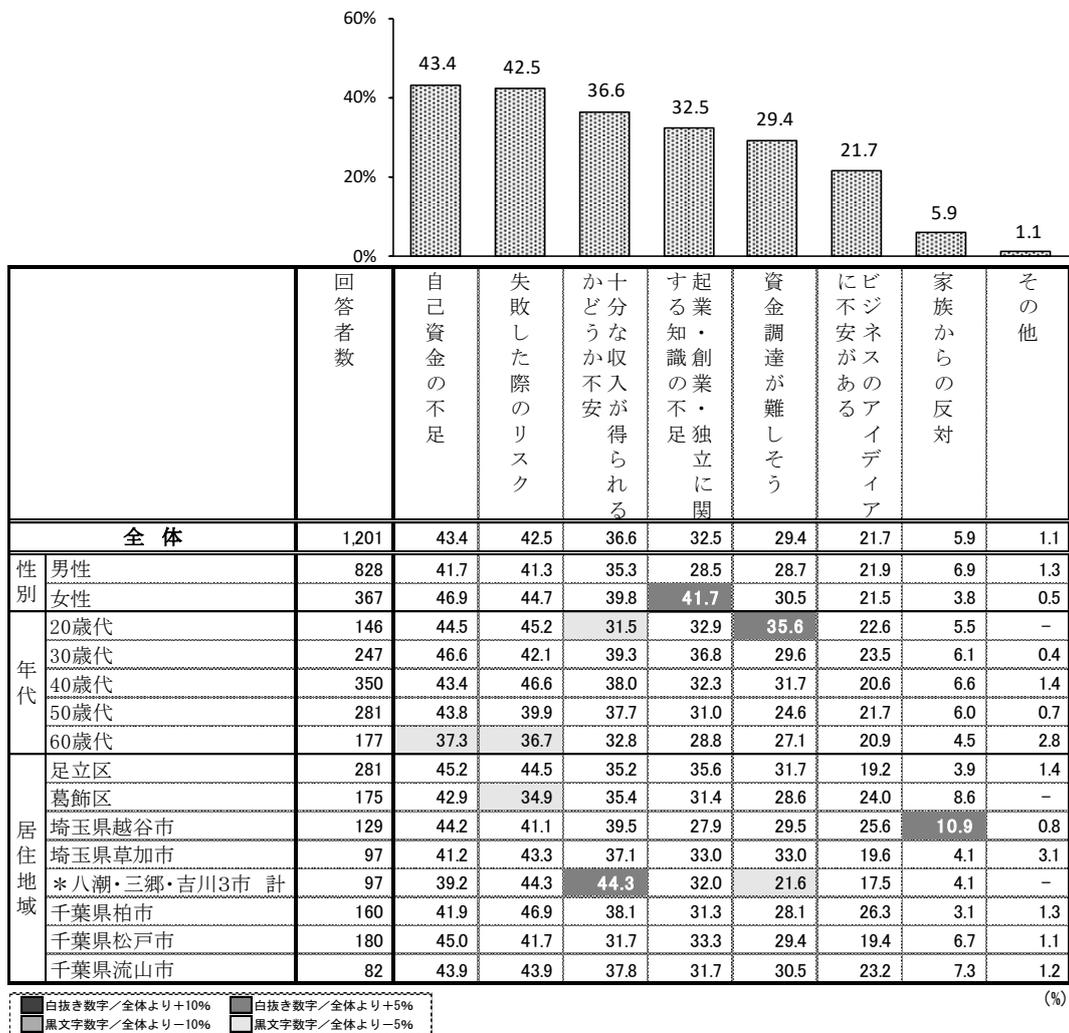


問15で選んだ最も有力な自身の起業・創業・独立先の地域の選択理由の結果をみると、「今住んでいる地域だから」(41.1%)が4割強で最も高く、これに「生活の利便性が高いから」(28.8%)が3割弱で続き、以下「地域に貢献したい・愛着がある」(18.5%)、「手頃な物件が多いから」(16.3%)、「街に魅力を感じているから」(14.9%)の3項目が1割台半ばから2割弱で並んで上位となっている。

この結果を属性別にみると、性別では大きな差はみられず、年代別で「今住んでいる地域だから」が50歳代(48.4%)で、「街に魅力を感じているから」と「新しい人脈を築きたいから」が20歳代(21.9%/17.1%)で、居住地別で「生活の利便性が高いから」などが草加市(37.1%)で、それぞれ高めとなっているのを除くと目立って大きな差はみられない。

問17 起業・創業の実行・検討時の懸念事項 (3つまでの制限回答)

■ 「自己資金の不足」と「失敗した際のリスク」が4割台前半で並んで上位。



自身の起業・創業の実行・検討時の懸念事項を3つまで選んでもらった結果をみると、「自己資金の不足」(43.4%)と「失敗した際のリスク」(42.5%)が4割台前半で並んで最上位を競っており、これらに「十分な収入が得られるかどうか不安」(36.6%)が3割台半ば、「起業・創業・独立に関する知識の不足」(32.5%)と「資金調達が難しそう」(29.4%)が3割前後で続いて上位になっている。

この結果を属性別にみると、性別では「起業・創業・独立に関する知識の不足」が女性(41.7%)で、年代別では「資金調達が難しそう」が20歳代(35.6%)で、それぞれ高めとなっているのを除くと大きな差はみられない。